

令和4年度第2回広島市社会教育委員会 会議要旨

日 時：令和4年11月2日（水）午後3：00～4：37

場 所：広島市男女共同参画推進センター5階研修室4

議 題（公開・非公開の別）：

- (1) 「広島市立図書館再整備方針（素案）」の改訂について（公開）
- (2) 令和4年度全国社会教育委員連合表彰の報告について（公開）
- (3) 広島市似島臨海少年自然の家の再整備について（非公開）

傍聴人：6名

出席者：(1) 委員 10名

砂橋議長、山川副議長、岩元委員、志賀委員、松本委員、湯浅委員、金谷委員、仲西委員、鈴木委員、山田委員

(2) 事務局 3名

市民局次長、生涯学習課長、育成課長

【議事（会議要旨）】

(1) 「広島市立図書館再整備方針（素案）」の改訂について

生涯学習課長が、資料1に基づき、「広島市立図書館再整備方針（素案）」の改訂について、概要を説明した。

<意見、質疑等>

（生涯学習課長）

初めに、本日欠席されている平尾委員より御意見をいただいているので、紹介する。

まず、一点目として、「現状に関する調査が不足しているように思います。例えば、図書館の利用者が全市的にも、中央図書館に特化しても、減少傾向にあるということでしたが、利用実績データ、利用者アンケート等から、その理由をしっかりと探るとともに、その結果についても候補地選定や図書館の在り方の検討に反映させる必要があると思われる。」との御意見を、

二点目として、「図書館運営の中核ともいえる、スタッフの方、司書の方など、まさに図書館の内部で働いておられる方々の声についても、素案として不足している部分ではないでしょうか。本来であれば本件に特化した委員会などを設けるべきものであると思います。同様に、図書館運営のプロでもある、該当する図書館のスタッフや司書の方々の視点は外すことのできないものであると考えます。」との御意見を、

三点目として、「新聞報道等を拝見するに『今回のスケジュールを変更する予定はない』とのことでした。民主主義をカタチにしていくための学びともいえる『社会教育』の中核機関の一つである、『図書館』という場所の設置やあり方についての議論は特に民主的であることが大切であると考えます。民主的であるためには、市民の主体性やまちに対する当事者意識の醸成が不可欠であり、現在のプロセスにおいては、まだまだこの点が軽んじられているように思えてなりません。スケジュールの再検討も前提に、より市民に開かれ、寄り添った、民主的な決定プロセスを望みます。」との御意見を、

四点目として、「7月に募集された市民意見を踏まえての素案の修正となっていると思いますが、具体的にどのような意見が、何件寄せられたのかを『事前に』公開いただきたいです。」との御意見を、

五点目として、「今後、整備場所として3案比較をすることになりますが、比較案については、結論を出す前に当該委員会や図書館の協議会でも提示し、予めしっかりと意見聴取をすべきではないでしょうか。」との御意見をいただいた。

一点目の、現状に関する調査が不足しているのではないかと御意見については、毎年公表している図書館要覧による入館者数の推移や、昨年度実施した「広島市立図書館のあり方に関するアンケート調査」及び図書館の利用者アンケートの結果などを基に、例えば、中央図書館であれば入館者数が平成21～30年度の間に約20%減少、図書館全体であれば約10%減少していることや、市民がもっと図書館を利用したくなる機能等として、「カフェなどの憩いのスペースがある」、「新刊・話題の本の充実」などのニーズが高いことを把握し、課題として整理しているところである。

このことについて、市議会や今年2月に公表した「広島市立中央図書館等再整備基本計画（案）」において説明し、それを踏まえた上で、図書館に求められる機能やサービスを検討してきた。

なお、再整備の候補地については、本年3月の市議会の付帯決議に基づき、図書館の再整備方針の作成後に、議会・利用者・有識者などに説明していく予定である。

二点目の、図書館職員の視点が不足しているのではないかと御意見について、今年の4月以降、図書館再整備方針を作成していく過程で、図書館職員と意見交換を行っており、引き続き意見交換を重ねながら進めていきたいと考えている。

三点目については、図書館に関する議論は民主的に進めることが大切であり、より市民に開かれ、寄り添った民主的な決定プロセスを経ることが望まれるという御意見として受け止めている。

四点目の、市民意見募集に係る御意見について、今回の市民意見募集については、全部で338件の御意見をいただき、整理しているところである。最終的なとりまとめ結果を整理でき次第、ホームページに掲載し、公表する予定である。

五点目の、整備場所に係る御意見について、再整備の候補地については、市議会の付帯決議に基づき、図書館の再整備方針の策定後に、比較検討を行った上で決定する予定であり、比較検討資料については、社会教育委員会議でも御報告したいと考えている。

(砂橋議長)

前回の資料は、ベタ打ちで分かりにくいという御意見もいただいたところであり、それについて、ポイントを明確にして、字体をゴシックにしたり、新しい項目が分かるよう明示するなど、変化が見られる。論点としては、それぞれの立場から、先ほど提案のあった資料の4頁以降について意見をいただきたい。また、不足している点などがあれば、併せて意見をいただきたい。

(山川副議長)

論点に対する意見を述べる前に、一点確認をさせていただきたい。

参考資料の1において、図書館のコンセプトは、令和4年2月の「広島市立中央図書館等再整備基本計画」(案)のコンセプトに依拠していると記載されているが、資料1頁のコンセプトの箇所には、「広島市立中央図書館等再整備基本計画」(案)に依拠している旨の記載がなく、関係性が分からない。「広島市立中央図書館等再整備基本計画」(案)が先にありきで、それに基づいた方針ということであれば、

計画に柱が乗っているの、そのままスライドしていくようなイメージで議論しなくてはいけないのかという点について、確認したい。

(生涯学習課長)

今年の2月に作成した「広島市立中央図書館等再整備基本計画」(案)は、基本的にはエールエールA館への移転を前提としたものであったが、図書館のコンセプトは、整備場所がどこであっても変わらないと考えているため、そのコンセプトを引き継いで検討している。

(山川副議長)

そうであれば、この会議の場で、コンセプトの柱そのものについては意見できないということか。それとも基本計画に記載されていた大きな柱であるコンセプトについても議論してよいのか。

もし、基本計画と関連しているのであれば、少なくとも資料の1頁には関係性を記載しておかなければ、なぜこのようなコンセプトになったのかが分からないのではないかと思います。

(生涯学習課長)

分かるような形でコンセプトを記載したい。

(砂橋議長)

記載については分かったが、そもそも議論の対象になるのかという点についてはどうか。

(山川副議長)

「広島市立中央図書館等再整備基本計画」(案)にあるコンセプトと、今回の再整備方針案の①～④がほぼ重なっているの、この柱のまま議論する必要があるかという点について確認したい。

(市民局次長)

2章で掲げたコンセプトは、場所にかかわらず、国際平和文化都市広島として実現していきたい図書館のあり方を示しているの、本市としては、コンセプトはこれでいきたいというのが前提である。

「第6次広島市基本計画」に基づいて図書館の運営を行っており、また、平和文化の中で、社会教育や生涯学習の推進の中核施設として図書館があるということからも、コンセプトはこれでいきたいと考えている。

また、前回の素案を示した際に、なぜそこに至ったのかが分からないという意見があったので、今回改めてその部分を示すこととした。昨年度来いただいた御意見や、素案を示して以降にいただいたパブリックコメントでは、オーソドックスに図書館に求められるものが多くあったので、そういったニーズを踏まえて素案を作ったという道筋を明らかにして、今回の方針案を作成した。

(砂橋議長)

それでは、コンセプトはコンセプトとして、主に4頁以降の「各図書館の方針」について、それぞれの立場から、御意見をいただきたい。

私からは、4頁の「中・高校生向け（ヤングアダルト）の図書などに特化したスペースの設置」について、誰の意見を反映したものか、伺いたい。今までなかったものを増やすきっかけは何だったのか。ピックアップに記載されている「若者のニーズに合った図書などを紹介」についても、具体的にどのようなイメージを持っているのかなど、御教示いただきたい。

（生涯学習課長）

本市の図書館では、これまでこども図書館は中学生まで、中央図書館は高校生からと役割を分担してきたので、本を選びにくい状況があった。ヤングアダルトコーナーを作ることで、中高生が読書に興味を持つきっかけになればという趣旨で、新たにコーナーを設置することとした。これについては、パブリックコメント等でいただいた意見を採用したものでもある。本市としては、多世代が活用できる図書館を目指しており、そういった機能に力を入れていきたいと考えている。

（砂橋議長）

もう一点、お聞きしたい。本離れしている人たちが本にたどり着くために、昔は司書などのガイドがあったが、そういったソフト面についても、なにか考えがあれば御教示いただきたい。

（生涯学習課長）

再整備するに当たって、多様かつ高度なニーズやレファレンスなどにも適切に対応できる職員を育成、配置するとともに、研修にも力を入れていきたい。

また、レイアウトなども工夫して、本離れをしている人たちが、本に興味を持ち、本にたどり着けるように取り組んでいきたい。

（山田委員）

ヤングアダルトコーナーには、具体的にどのような本を並べることを想定しているのか。意図としてはよく分かるが、どんな本が並んでいれば、中高生等が集まると想定しているのか。

（事務局）

中学生にとって児童向けの本は簡単すぎて、中学生であっても専門的なものは大人の本を読みたいというニーズがある。高校生は、本から離れていく傾向があるので、ライトノベルなど挿絵があるような読みやすい本を手に取りやすい。また、美術系、音楽系、写真集などにも手が伸びる可能性があると考えている。

今は中央図書館とこども図書館が別々に選書をしているので、今後はそれをつなげられるように、中間的な本と一緒に置いて本を読むことにつなげていければと考えている。

その他にも、他都市の例をみると、若者が関心を持っているのは恋愛や就職、進学関連なので、そういった本を置きたいと考えている。

レイアウトについて、自習室は多くの中高生に利用してもらっている所以、自習の合間などに、いい本があるなと手に取ってもらえるように考えていきたい。

(山田委員)

個人的には大いに置いてもらいたいと思うが、いわゆるラノベ(ライトノベル)が大量に並ぶのも大丈夫かなという気もする。実際の今の図書館の運用について話を聞くと、アニメの人気が出ると、その原作のラノベの貸出件数が非常に増えるらしい。そういった本をたくさん置いて、中高生の世代を引きつけることも非常に重要だと思うが、その一方で、我々が子どもの頃に漫画を読んでいると親にひどく怒られた経験があり、実はそれと同じことが今ラノベについても起きている。今は図書館に漫画が並ぶ時代であり、個人的には積極的に取り組んでほしいと思うが、それに対して様々な意見が出るのが想定される。

いずれにしても、中高生の世代をしっかりと引きつける工夫をしてほしい。就職だけではなく、多くの人を集められるコンテンツを考えてほしい。

(山川副議長)

資料5頁及び6頁の「広島を知る」について、5頁は、既にあるもの、現状を知るということだと思うが、これからの次世代を考えると、「広島を語る」とか「広島を創る」など、広島の未来を創るような機能があってもよいのではないか。6頁では、「地域課題解決」という言い方がされているが、中高生にとっては、地域課題解決というよりも、自分のこれからを考えるということ、もう少し広い視野で未来を考えるという方が受け入れやすいのではないか。以上のことから、5頁及び6頁に、「広島を創る」というような未来志向的な視点を入れてほしい。

それに関連して、4頁の読書環境の整備について、今回、ユニバーサルデザインが挙げられているが、よりユニバーサルを目指すのであれば、図書館に足を運ぶことが難しい方にとっては、電子図書館を整備することも有効だと思う。札幌市、神戸市、明石市などは、電子図書館を併設して運用している。

次世代に向けた視点とアクセシビリティを広げる視点をもっと取り入れてはどうかという提案である。

(生涯学習課長)

「広島を創る」については、どのような表現ができるか検討したい。

また、電子図書館については、本市としてもデジタル化の重要性は十分に認識しているので、検討していきたい。

(岩元委員)

ヤングアダルトコーナーに、例えば「広島の中学生に読んで欲しい本100選」などをアンケートで募って置くのはどうか。私自身、中学生に読んでほしい本がたくさん頭に浮かぶので、そういった考えを募ってコーナーにすれば、参画意識が出るという点においてもよいと思う。

もう一点は、電子図書館について、今はAmazonでもオーディブルという本を読んでもくれるサービスがある。オーディブルには、ながら聞きができるという利点と、高齢者等が目を使って紙の本を読むのがしんどいなという時でも読書がはかどるという利点がある。これからの図書館には、そういったサービスもあってもよいのではないか。

(生涯学習課長)

ヤングアダルトコーナーにどういう本を置いていくかについては、いろいろな方のご意見を聞きながら、入れ替えも行いつつ、利用者に興味を持っていただけるように取り組みたい。

オーディブルのサービスについても、これからの時代に合わせて検討し、取り入れられるものは取り入れていきたい。

(岩元委員)

現在、図書館で選定した「中学生や高校生に読んで欲しい本100選」というようなものはあるのか。

(事務局)

こども図書館では、2年に1回、新刊からおすすめの本を選んで小冊子を作っており、その冊子に中学生向けの本も掲載している。

(岩元委員)

新刊に限らず古い本にも読んでほしい本はたくさんあるし、家庭で選書する際の参考にもなるので、広島ならではの本も含めてコーナーを作り、それが契機となって図書館に繋がっていければよいと思う。

(事務局)

7頁に、「幅広い世代のボランティアなどの協力によるおすすめの本の紹介」と記載しているとおり、司書だけでなく若者と同世代の人たちにも本を紹介してもらうなど、充実させていきたいと考えている。

(岩元委員)

これまでの図書館でも実施されていたと思うが、これからの新しい図書館においても、仕組みとして確立されるとよいと思う。

(志賀委員)

6頁のまちづくり、地域課題の解決については、地域の教育力向上とセットである。

図書館の今の機能として、地域課題解決のための情報を整備する旨が記載されているが、図書館は情報収集の場所というだけでなく、情報を基にしてグループやチームで学び合えること、ディスカッションできること、そして、そこで出てきたものを若い人たちが実際にフィールドで試行することで、情報収集と学びと試行の三位一体で回せる機能にしていくことが非常に重要である。

そのためには、資料だけではなく、人材育成のための拠点となるようなスペースやプログラムが整備されている必要がある。

問題意識が非常に高い人にとっては、資料があるだけで十分かと思うが、図書館には人を未来志向で育てていくという思考が必要だということを今回も改めて感じた。

(生涯学習課長)

個人やグループで学習できるスペースの充実を図り、皆で話し合い、活動ができるよう繋げていきたい。

(松本委員)

そもそも、どうすれば図書館に来てもらえるのかがネックだと思う。そのために、中身をどうするか検討し、どう情報発信をしていくか考える必要がある。造ったところがゴールになってはいけない。

また、大学に進学する際に、一応大学には行くが将来何になるか決めていない、とりあえず大学に行く、という高校生も多い。なぜ決めていないのかというと、どのような職種があるか分からず、その情報をどうやって得ればよいのかも分からないという状況であると、学生や学校から聞いた。例えば、私の職業はコアな仕事で、スポーツであり、健康づくりであり、病気の重症化予防でもあって、幅広い分野に関連しているのだが、そういった職種があるということ自体あまり知られていない。

未来の子どもたちにどういう職業があるか知ってほしいという思いがあり、そのために図書館などが果たす役割は大きい。

大人が読んでほしい本と子どもたちが知りたいと思うことがミスマッチにならないように、SNSなども活用して子どもたちの意見を情報収集し反映していただきたい。

(生涯学習課長・事務局)

この度の市民意見募集においてもSNSを活用したように、若い人への情報発信を充実させていきたい。図書館が提供している様々なサービスを、皆さんに周知できていない点を課題として受け止めており、8月15日号の「市民と市政」でも、図書館のサービスについて特集を組んで広報している。今後も紙面だけではなくSNSなども活用して若い世代にも届くように情報発信をしていきたい

また、高校生向けの職業案内については、中央図書館に、「高校生のための職業ハッケンコーナー」を設けている。どういう職種があるか、職業ごとにどういった資格が必要かなど、コーナーを設けて図書を提供しているが、PRが足りないかもしれない。

また、市内のいくつかの高校に司書が出向いて、ブックトークの出前講座を行っており、その中で、就職に関する本なども紹介している。

より多くの方に利用していただけるように、これらの取組について周知し、新しい図書館においても、機能を充実させるよう取り組んでいきたい。

(湯浅委員)

4頁の「読書環境の整備等」や7頁の「憩いの空間整備等」について、「より快適に読書できるような多様な閲覧スペース」と記載されているが、建物の中、「ハコ」の中だけでなく、屋上のスペース、現地であれば緑地、エールエールA館であれば水辺緑地などを、多様な閲覧スペースとして活用していただきたい。静かに読書できるスペース、おしゃべりしながら読書できるスペースなど多様な閲覧スペースがあり、また、季節ごとの良さやその移ろいも感じながら活字に親しめる図書館であってほしいと願っている。

(仲西委員)

11頁に、各図書館の役割のネットワークが図示されていて分かりやすいと思ったが、全体のイメージの図がなぜ区図書館の後のこの場所に挿入されているのかが分からなかった。

図をよく見ると中央図書館と区図書館が円で囲まれているが、この円についての説明等が記載されていないので、御教示いただきたい。

また、それぞれの図書館の役割は記載されているが、この場合は社会教育を考える場で、社会教育の拠点といえば公民館だと思う。イメージ図の中には公民館が記載されているが、可能であれば、公民館に期待する役割等について、まんが図書館の後に公民館の項を設けて記載していただければと思う。

(生涯学習課長)

ネットワークの図については、中央図書館と区図書館の役割を分かりやすく示したいという趣旨でこの場所に挿入している。区図書館を囲んでいる円について、基本的にはその円の中で配本等により本が循環しているイメージを表している。

今回は、図書館の再整備方針ということで、公民館の機能等については記載をしていないが、公民館と連携しながら活用を図っていききたい。4頁にも、「公民館や地域文庫などと連携した閲覧・貸出等の充実」と記載しており、今後も重点的に取り組んでいきたい。

(金谷委員)

修正案について、ヤングアダルトコーナーなどいくつか新しい項目が追加されているが、全体を通して、それらが追加されたプロセスが見えない。市民意見をいくつかピックアップするなど断片的な説明はあったが、唐突に感じたところもいくつかあった。

4回目の発言になるが、なぜこの改定案の中身が作られたのかということ判断するための根拠となる資料を提示していただきたい。冒頭の説明において、利用実績については既に資料を説明済みとのことであったが、それでは足りないので、もう少し細かい利用者のデータや、他の地域と比較した広島市の図書館の利用状況など、詳しい資料をいただきたい。

市民意見についても、三百数十件からこの7つの意見がピックアップされたプロセスが見えない。市民意見は今後公表されるとのことであるが、その中には、ここに表れていない重要なことがあるかもしれない。それを踏まえた上で、計画を策定する必要があると思う。

また、図書館の方々の意見も聞きたいと前回申し上げた点について、図書館職員と意見交換しているとだけ説明されたが、実際、専門的な立場の人はどういう意見を持っているのか、図書館の生の声、正確な情報を基に計画は作られるべきではないかということ再度申し上げたい。

最後に、図書館の利用者が減少していることや若者の利用が少ないことの理由の一つとして、PR不足ではないかという説明があったが、様々なネット情報などが普及している中で、書籍を中心とした図書館に対するニーズがどうなっているのか、果たしてそれを増やすことを前提に施設を考えることが妥当なのかという分析も必要ではないか。電子図書やオーディブル等を取り入れて施設を充実させることについては賛成だが、無理やりニーズを増やすというよりは、増えない前提で、ハード面では縮小することも視野に入れて、ハコモノとしての図書館という今のスタイルを同じ規模で維持することが妥当なのか、もっとコンパクトでもいいのかというような議論をすることが必要ではないか。

(生涯学習課長)

図書館で一番スペースが必要なのは蔵書であり、将来的には図書の出版点数や電子書籍の今後の普及の動向を考慮しながら検討する必要があるが、現時点ではできるだけ多くの図書資料を収集できるように考えていきたい。規模については、設計など具体的に整備に取り組む中で検討していきたい。

(砂橋議長)

金谷委員の発言は何度も御提案いただいている内容なので、今後どこかで議論ができることを期待している。

(鈴木委員)

IT化が非常に進んでいる中で、今は本を借りるために利用者カードを持参する必要があるが、スマートフォンで貸出しなどができるようになればよいと考えている。

また、資料の中に出てくる自動貸出機とはどのようなものか。

(事務局)

自動貸出機は、利用者が利用券と本を置くと職員の手を借りずにセルフで本の貸出しの手続きができるもので、今も図書館に置いてある。

(鈴木委員)

どこの区にも置いてあるのか。

(事務局)

どこの区にも置いてある。

なお、資料に記載している「セルフ式予約図書受け取りコーナー」について、現在広島市では、予約した本は必ず職員を介して受け取るようになっており、非効率的な面があるので、他都市の図書館を参考にして、予約した本についてもセルフで受け取ることができるシステムを導入していきたいと考えている。

(鈴木委員)

より多くの方に利用してもらえよう、周知していただきたい。

(山田委員)

個人や少人数での利用についてはいろいろと記載されているが、大人数で使う、例えば多目的なイベントスペースに関する直接的な記載がないように思う。ヤングアダルトの世代を集めるために、ビブリアバトルやトークショーなどのイベントを実施することも考えられるので、そういったイベントの企画についての記載があってもよかったのではないかな。

また、再整備方針には、映像文化ライブラリーについて全く記載がない点については問題ないのか。

(生涯学習課長)

新しい図書館では、様々なスペースを確保したいと考えており、設計に当たっては、イベント等もできるように広さ等を検討したい。

映像文化ライブラリーについては、令和4年2月に示した「広島市立中央図書館等再整備基本計画」(案)において、中央図書館に機能を集約するとしているので、再整備する中央図書館に併設して整備する方向で進めていきたい。

(山川委員)

図書館にゲートがあるとそこで白か黒か区切られてしまい入りづらくなるが、例えば福山市のように、公園まで図書館機能を拡張して親しみやすさや一体的運用を演出しているところもあるので、志賀委員及び湯浅委員の意見には大賛成である。

最初に、「広島市立中央図書館等再整備基本計画」(案)との関係を教えてほしいと述べた件について、金谷委員と同意見で、やはり再整備方針案が唐突に出てきた感が否めない。何を根拠に記載されているのか分からないので、この間私なりに探してみたところ、再整備基本計画を作る際には市民ニーズアンケートや図書館協議会でのヒアリングを実施しており、それをベースに基本計画を作り、その計画からこの方針案を作っているように見えるが、その関係性がよく分からない。再整備方針案を見る限り、何に基づいてこの方針が立てられたのか記載されていないので、読み取れない。先ほど、「第6次広島市基本計画」に基づくと言われたが、それは全ての施策がそうであって、図書館に特化したものではない。どのような根拠やデータがあって具体的にこのようになるのかという道筋が見えてこないで、最初に再整備基本計画との関係性について尋ねたところである。

どれだけのデータ、エビデンスを取って再整備基本計画を作ったのか示した上で、それを基に再整備方針案が作られたというのであれば、おそらくその段階でこの視点が抜けているなどの議論が出てくと思う。何に基づいて再整備基本計画が作られて、その基本計画に基づいて再整備方針案ができたのかという関係性が見えないので、唐突に見えてしまっており、何を探らないといけないのか・提案をしたらよいのかもわからない状態というのが正直なところである。

再整備基本計画を作るに当たり、令和4年1月に市民意見募集を実施していて、その意見を整理して基本計画を作成し、それを基に今回の方針ができたということかと思われるが、一度の市民意見募集だけでは足りないと思われていて、もっと司書の話を知りたいという意見やデータ収集が必要ではないかという意見が出されているのではないかと。

こうしたプロセスの精査や透明性に関する議論が繰り返しになっているので、可能であれば、ここに至るまでのプロセスをもう少し詳細に示していただけると引っかかることなく前に進めるのではないかと。

(生涯学習課長)

いただいた御意見について、どのようなことができるか検討したい。

(砂橋議長)

皆さんの意見を整理すると、イベント用のスペースが必要ではないか、何を基に再整備方針案が作られているのか教えてほしい、データを基に検討すべきではないか、などいろいろな提言があったので、これらを踏まえて、次回また議論ができることを願っている。

(2) 令和4年度全国社会教育委員連合表彰の報告について

生涯学習課長が、令和4年度全国社会教育委員連合表彰について、本市の正本大元委員が表彰された旨を報告した。

(3) 広島市似島臨海少年自然の家の再整備について

以下、非公開